1　教育目標

○　名古屋市小中学校指導方針について
『ナゴヤ学びのコンパス』目指したい子どもの姿

ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける

・　重視したい学びの姿は「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び会う」「夢中で探求する」姿である。
・　主体的･対話的な深い学びの実現を目指して、一人ひとりの興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
・　どの学校園でも大人が大切にしたいことは「子どもは有能な学び手であると理解し、子どもの学びに伴走する」ことである。

○　本校の教育目標

豊かな心をもつ生徒の育成

(1) 話合いや学び合いを通して互いに高め合おうとする生徒
(2) 他を思いやる豊かな心をもった生徒
(3) 強い心と健康な体をもつたくましい生徒

2　学校努力点と推進計画

(1) 努力点主題

仲間と共に、主体的に行動できる、自律した生徒の育成

(2) 主題設定について

本校では、学校行事や生徒会活動などで主体的に取り組もうとする生徒の姿が見られる。しかし、主体的に考えて行動できる生徒とそうでない生徒の意識に差があり、自分で考えて、自分で適切な判断をして、自律して行動とすることには課題が見られる。そこで、今年度は努力点を『ナゴヤ学びのコンパス』をより意識して、「仲間と共に、主体的に行動できる、自律した生徒の育成」とし、仲間と共にゆるやかな協働性の中で、生徒たちの主体性を育て、探究的な学びを大切にしながら、自律した生徒を育成していきたい。

今年度はキャリア教育全体計画が策定され、実施していくスタートの年である。努力点を受けたキャリア教育全体目標も、「自律」を意識した全体目標にしていく。また、生徒が自律して行動できるようにするためには、教師が全て準備をして、全て細かく指示をしてその指示に従って生徒が行動するという状態から脱却したい。生徒が自ら目標を設定し、取り組み、その取り組みを振り返り、次へ生かすことが大切である。生徒が考えて行動できた時には、教師が120%全力で褒め、失敗した時には振り返りの中で次の成功につなげられるようにするなど、失敗は成功に向かうためのチャンスと捉え、生徒の成長につなげたい。仲間と共に学び合うためには、話し合うことが目的にならないように、まずは自分で考えようとする行動を生徒に促し、考えようとするからこそ分からない部分を仲間から聞いたり、教え合ったりする行動につなげたいと考える。そのためにも『ナゴヤ学びのコンパス』のエッセンスを取り入れて、自ら目標を設定し取り組ませることによって、「仲間と共に、主体的に行動できる、自律した生徒の育成」を目指したい。

(3) 目指す生徒像

① 学　級

○　相手のよさを見付け、認め合う中で、人間関係を築くことができる生徒
○　自分のよさを生かし、多様な人と学び合い、目標に向かい高め合う生徒
○　クラスや級友を大切にしようとする生徒

② 教　科

○　授業に真剣に取り組む生徒
○　基礎的・基本的な学力を身に付け、「主体的に考え続ける」生徒
○　自分のよさを発揮し、自分に合ったペースや方法で学ぼうとする生徒
○　他の考えや取り組みのよさに気付き、多様な人と学び会うことのできる生徒
○　互いに協力して課題に取り組むことができる生徒

③ 特別活動

○　行事に熱中し、全力を出しきることができる生徒
○　集団の中での自分の役割を自覚し、共に高め合い、楽しめる生徒

④ キャリア教育・総合的な学習の時間

○　自分を知り、自分のよさに気付き、多様な人と学び会える生徒
○　夢中で探求する中で、体験や他の生き方を学び、自分の生き方に結び付け、よりよい生き方を考えることができる生徒
○　自分の夢や目標をもって他と高め合いながら、目標達成に向け努力できる生徒

⑤ 生活・道徳

○　互いに挨拶ができ、コミュニケーションを高め合える生徒
○　規範意識をもち、ルールを守り、経験を生かしながら秩序ある学校生活ができる生徒
○　互いに違いを認め合い、相手を思いやる豊かな心をもつ生徒
○　辛いことや苦しいことに負けず忍耐強く、たくましい心をもつ生徒
○　謝罪し、反省する人の失敗を許す寛容な心をもつ生徒

(4) 生徒・保護者・地域への発信

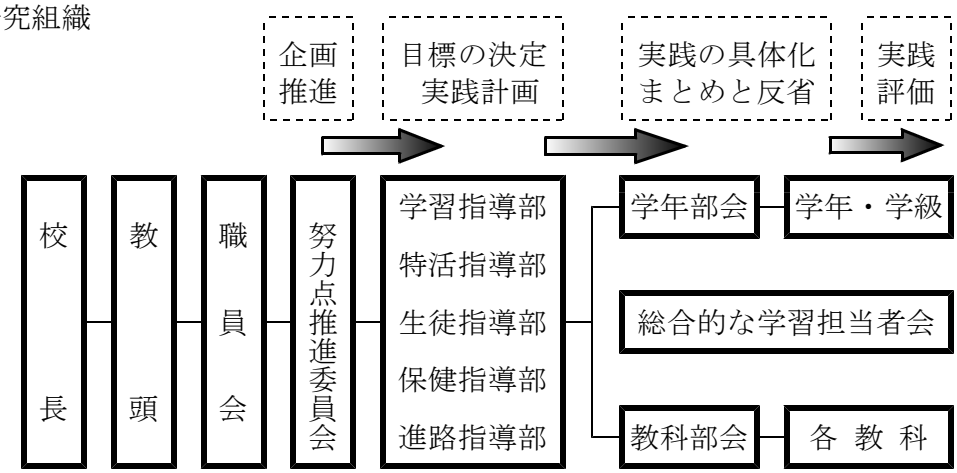
南光中職員・５つの努力

○　明確なビジョン（活動の目標）をもって指導にあたります
○　時間を守る、自ら進んで挨拶をするなど、基本的な社会的スキルを身に付けさせます。
○　忘れ物をしない、家庭学習に取り組むなど学習習慣の基礎を身に付けさせ、自分に合ったペースや方法で学ぶこと重視します。。
○　生徒たちと対話し、「いいこと」「いけないこと」の理由を真剣に考えさせ、健全な心を育てます。
○　保護者・地域との連携・情報交換を大切にします。

※１　学習の基礎・基本的な力を定着させるために必要なこと
「授業に真剣に取り組む、家庭学習に取り組む、自分なりの目標設定をする、自身の学習状況を振り返り改善する」などの事柄

※２　社会に出て行くために必要なこと
「忘れ物をしない、提出物を期限内に出す、気持ちのよい挨拶をする、時間を守る、身だしなみを整える、正しい言葉遣いをする」などの事柄

(5) 研究組織



(6) 研究計画

①努力点のキャリア教育実践

各学年で実践計画を作成し、学年で実践に取り組む。２学期の前半に努力点の中間報告と第２次実践に向けての計画を立てる。その計画を基に、２学期に第２次実践に取り組み、その成果と課題を努力点の最終報告会で共有する。

②努力点の教科の授業実践

各教科でグループを作成し、１人は公開実践に取り組む。

さらに、実技教科は別でグループを編成して公開実践に取り組む。

(7) 努力点取組の具体化

① 手立ての明確化

- 各活動の中で、見通し（目標・予想など）を立てさせる。
- 活動の終了後や単元の授業の最後に、振り返りをさせる。
- 見通しや振り返り（まとめの活動を含む)、単元の途中の活動などで効果的にＩＣＴを活用する。

② 互いに見合った意見や感想を共有する

- 現職教育で実践を聞きあった時は、現職教育の振り返り＆現職教育通信で共有する。
- 公開実践の後には、参加者が授業者に気付いた点や改善点を伝える。

③ 実践

- 現職教育で、指導方法について学び、実践に生かす。
- 各学期、現職教育で指導方法や工夫、生徒の反応、成果と課題などを話し合う。

④ アンケート（今年度から来年度へ向けて）

- 保護者、生徒、教職員にアンケートを実施する。
- 生徒の実態や今年度の実践から、主題についての検討する。

⑤ まとめ

○ 中間まとめ（取組の経過と今後の課題についての話合い）

- 指導計画に基づいた実践の経過を報告し合う。
- 実践の成果と課題をまとめる。

○ 最終まとめ（学校評価と今年度の成果と課題についての話合い）